

図書館だより

No.6 令和7年 10・11 月合併号
No.7 大洲中学校図書館

秋が来た！と思ったら…

皆さんこんにちは。早いもので11月を迎えました。11月は「立冬(りっとう)」です。文字通り「冬」を迎えたわけです。何かアツ！という間に冬が来てしまった様な感じですね。個人的な話で申し訳ないのですが、私、寒いのが大の苦手で、寒さが厳しくなる1月から2月にかけては必ずと言っていいほどお腹が痛くなってしまいます。カイロをお腹に貼り、暖かくなる日をまだかまだかと待っているんです。ああ…、今年もまた憂鬱(ゆううつ)な冬が始まったよ～っ(๑)

ところで、2023年度に大洲中学校で一番読まれた本の第1位となった『ストロベリームーン』(年間16回)ですが、ついに、その第2弾として『コールドムーン』という名前の本が出版されました。この本は、第一作目の“それから…”にあたる作品で、主人公の桜井萌(もえ)を失い、まるで抜け殻のようになってしまったもう一人の主人公佐藤日向(ひなた)と、幼い頃から彼のことを一途(いちず)に思う高遠(たかとう)麗(うらら)とのお話です。12月に到着予定です。ご期待ください。

【新規購入本のお知らせ】*展示は11月17日(月曜日)頃を予定

・「小説 すずめの戸締り」 新海 誠 著 汐文社

九州の静かな港町で叔母と暮らす17歳の少女、岩戸(いわと)鈴芽(すずめ)。ある日の登校中、美しい青年とすれ違った鈴芽は、「扉を探してるんだ」という彼を追って山中の廃墟(はいきょ)へ辿(たど)りつく。しかしそこにあったのは、古ぼけた白い扉だけ。鈴芽はその扉に手を伸ばすが…。新海誠監督が自ら執筆した原作小説！

・「なんで人は青を作ったの？」 谷口陽子・高橋香里 著 新泉社

大好評の「13歳からの考古学」シリーズ第5弾。かつて、ラピスラズリという鉱物から作られる天然のウルトラマリンブルー1グラムは、金1グラムと同じ価値でした。それほどに貴重だった青色を求め、人類はさまざまな技法を編み出していった。人類最古の合成の青色エジプシャンブルー、インディゴ染料で作られたマヤブルー、捨てられる物から作られたプルシアンブルー…。蒼太郎(そうたろう)と律(りつ)は、青色の再現実験を通して、「青」の魅力にハマっていく。

・「あの子の隣で待つ春は」 上田聡子(さとこ) 著 文研出版

『好き』を心の真ん中において、大事にしていっただけいいと思う。私は好きなことをずっとやってたら、大切な友達に出会えたんだ…。対照的な性格を持つ中学2年生の二人の主人公、朝佳(あさか)と柚葉(ゆずは)の偶然の出会いをきっかけに、過去のトラウマを乗り越えたくましく成長していく姿を描いている。二人がお互いを大切に思いやり、ときには衝突しつつも固い絆を深めていく姿はとても印象的です。どんなに今が苦しくても、『好き』を通じて多くの人と出会い、世界観を広げていけば救われる瞬間がくることを読者に伝える渡邊一押しの青春ストーリー。

・「星の教室」 高田 郁(かおる) 著 角川春樹事務所

主人公の潤間(うるま)さやかは、中学に入学してすぐに激しい暴力をとこなういじめに遭い、二学期から不登校となりそのまま中学を中退しアルバイト生活を送ることに。ある時アルバイト先で夜間中学の存在を知ったさやかは、夜間学級を持つ河堀(かわほり)中学に見学に行きます。入学したい気持ちはあるものの、学校生活への恐怖感が拭(ぬぐ)えない

ままでいたさやかだったが、偶然出会った老女、山西落子(ふきこ)が入学を後押ししてくれたことがきっかけとなり、夜間中学への入学を決める。戦争や貧困、病気など様々な理由で学校に行くことができなかった、年齢も国籍もばらばらな人々に囲まれながら、さやかの夜間中学で学ぶ日々が始まった。

心に深い傷を負った主人公が、年齢も国籍もばらばらな生徒たちとの交流を経て、自らの進むべき道を見出して行くこの作品は、今年を代表する一冊となる可能性が高い物語といえる。

・「カムイの大地」 北海道と松浦武四郎(たけしろう) 泉田もと 著 岩崎書店

幕末の動乱(どうらん)の時代、北の大地を歩き、詳細な記録を書き続けた男がいた。その名は松浦武四郎。北海道の名づけ親として知られている武四郎の、生涯をかけた北海道の旅の史実をベースに物語として描いた作品。

・「ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人」 東野圭吾 著 光文社文庫

故郷で父が殺害された。仕事と結婚準備を抱えたまま実家に戻った真世(まよ)は、何年間も音信不通だった叔父(おじ)の武史(たけし)と再会する。元マジシャンの武史は警察を頼らず、自らの手で犯人を見つけるという。かつて教師だった父を殺した犯人は、教え子である真世の同級生の中にいるのか。コロナ禍に苦しむ町を舞台に、新たなヒーロー“黒い魔術師”が、手品のように華麗に謎を解き明かす長編ミステリー！

・「あの日、タワマンで君と」 森 晶磨(あきまろ) 著 小学館

配達員の山下創一(そういち)に、ある日、高級レストランから料理を届ける仕事が入る。依頼人は六本木で最も高いタワーマンションの最上階に住む多和田(たわだ)という男で、創一が到着すると、強引に部屋に上がらせた。戸惑う創一だったが、窓の外に広がる地上47階の景色に心を奪われてしまう。さらに、そこに現れた人物に驚く。それは高校時代、密かに想いを寄せていた静香だった。部屋に入ってきた女は玲良(れいら)と名乗り、多和田は自分の婚約者だと紹介した。配達員の登録番号4443番にちなみ「ヨミ」と名付けられた創一は、金を持って余している多和田の言動に振り回されながらも、誘われるままタワマンに通う。やがて玲良との距離も縮まりだしたころ、多和田は突然ヨミと自分の「入れ替わり」を提案した。安易に交換生活を受け入れたヨミに、多和田は告げる。「約束してくれ。このタワマンから絶対に一步も出ないことを」。そして、三人の関係は大きくゆがみ始めるのだった。彼らのあいだに隠された秘密とは？太陽にもっとも近い虚飾(きょしょく)の密室で起きる恋愛ミステリー。

・「爆 弾」 呉(こ)勝浩(かつひろ) 著 講談社

些細(ささい)な傷害事件で、とぼけた見た目の中年男が野方署(のがたしよ)に連行された。たかが酔っ払いと見くびる警察だが、男は取調べの最中「十時に秋葉原で爆発がある」と予告する。直後、秋葉原の廃ビルが爆発。まさか、この男“本物”か!?. さらに男はあつけらかんと告げる。「ここから三度、次は一時間後に爆発します」。警察は爆発を止めることができるのか。爆弾魔の悪意に恐ろしくて震えが止まらなくなるノンストップ・ミステリー。ついに10月31日に上映が開始された、ちょっと気になる一冊です。

上記のほかに、

「ありか」 瀬尾まいこ、「僕の悲しみで君は跳んでくれ」 岡本雄矢(ゆうや)、「北緯44度 浩太の夏」 ぼくらは戦争を知らなかった 有島希音(きおん)、「13歳からの進路相談」 仕事・キャリア攻略編 松下雅征(まさゆき) の計12冊をご用意して、図書館で皆様のご来館をお待ちしておりま～す (^O^)/

